

[復興支援道路（東北中央自動車道）]

相馬福島道路 相馬玉野ICそうまたまの～霊山ICりょうぜん間
平成30年3月10日（土）に開通します。
～相馬地方と福島県内陸部の連携を強化～

国土交通省 福島河川国道事務所が事業を進めてまいりました東北中央自動車道相馬福島道路のうち、相馬玉野ICそうまたまの（インターチェンジ）から霊山ICりょうぜん（インターチェンジ）までの延長17.0Kmが平成30年3月10日（土）に開通する事となりましたのでお知らせいたします。

また、今回の開通予定区間に設置するインターチェンジ（IC）名称も決定しましたので併せてお知らせいたします。

今回の開通によって、次の効果等が期待されます。

- 効果1：相馬～福島間の安全・安心な通行を確保
- 効果2：救急搬送の速達性・安定性を確保
- 効果3：広域的な観光周遊を支援
- 効果4：物流効率化で企業活動を支援

1. 開通区間

東北中央自動車道 相馬福島道路（相馬玉野ICそうまたまの ～ 霊山ICりょうぜん） 延長17.0Km

※自動車専用道路（無料）となりますので、歩行者、自転車、軽車両及び二輪車（125cc以下）は通行できません。

2. 開通日 平成30年3月10日（土）

※当日の開通時刻、開通式典等については、後日お知らせいたします。

3. IC（インターチェンジ）名称（正式名称）

霊山飯館ICりょうぜんいいたて ← （仮称）阿武隈IC

霊山ICりょうぜん ← （仮称）霊山IC

※インターチェンジ名称については、地元自治体の意見を反映し決定しております。

<記者発表記者会：福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ、いわき記者会、いわき記者クラブ
いわき市ふるさと発信課、南相馬市役所記者クラブ>

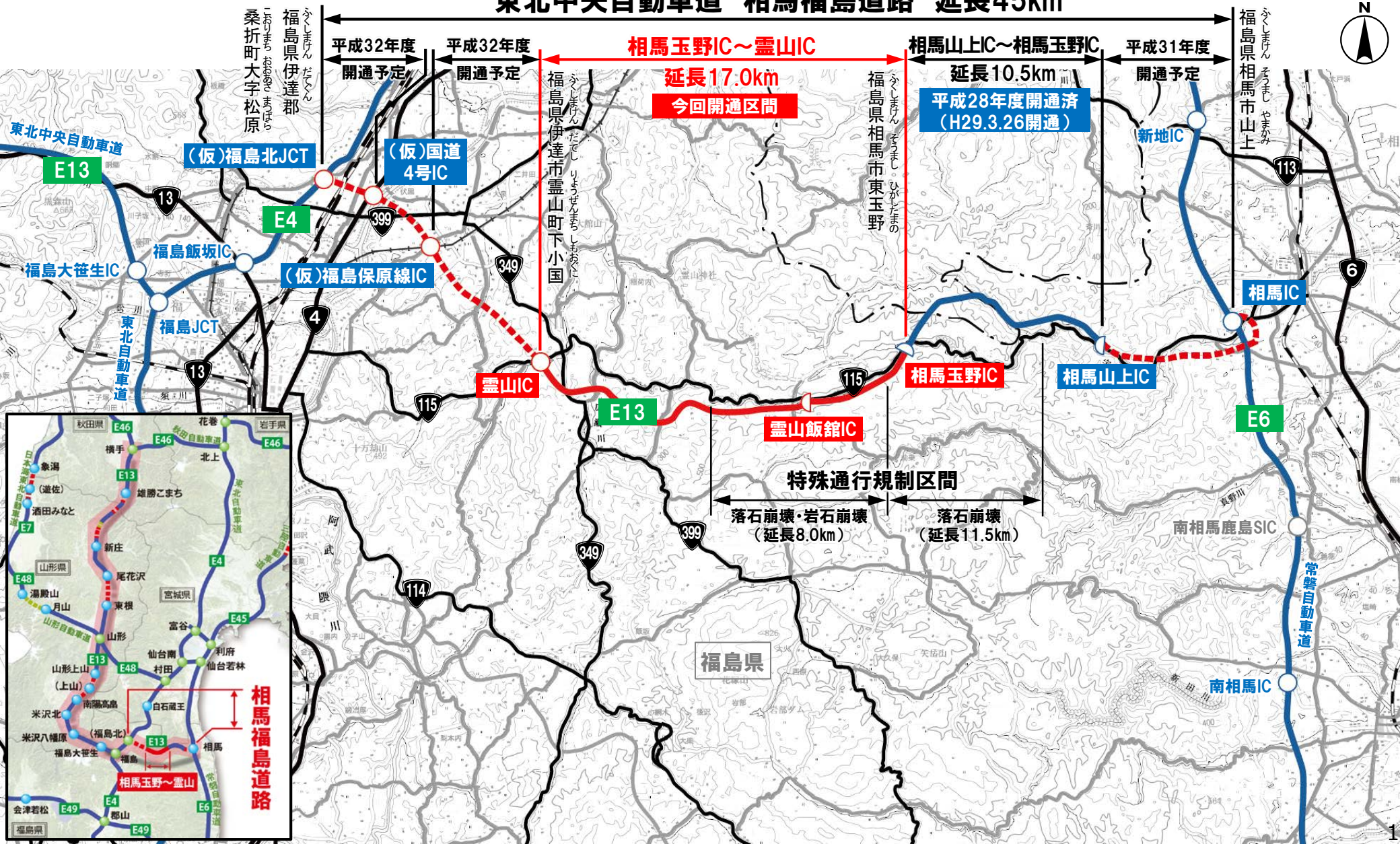
【 問 合 せ 先 】

国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所
(道路担当) 副 所 長 さ の とも き 樹 (内線205)
工務第二課長 まつ もと あきら 章 (内線411)
TEL 024-546-4331(代)

位置図

- 凡例
- : 今回開通区間
 - - - - : 事業中区間
 - : 開通済区間

東北中央自動車道 相馬福島道路 延長45km



桑折町大字松原
福島県伊達郡

平成32年度
開通予定

平成32年度
開通予定

相馬玉野IC~霊山IC
延長17.0km
今回開通区間

相馬山上IC~相馬玉野IC
延長10.5km
平成28年度開通済
(H29.3.26開通)

平成31年度
開通予定

特殊通行規制区間
落石崩壊・岩石崩壊
(延長8.0km)

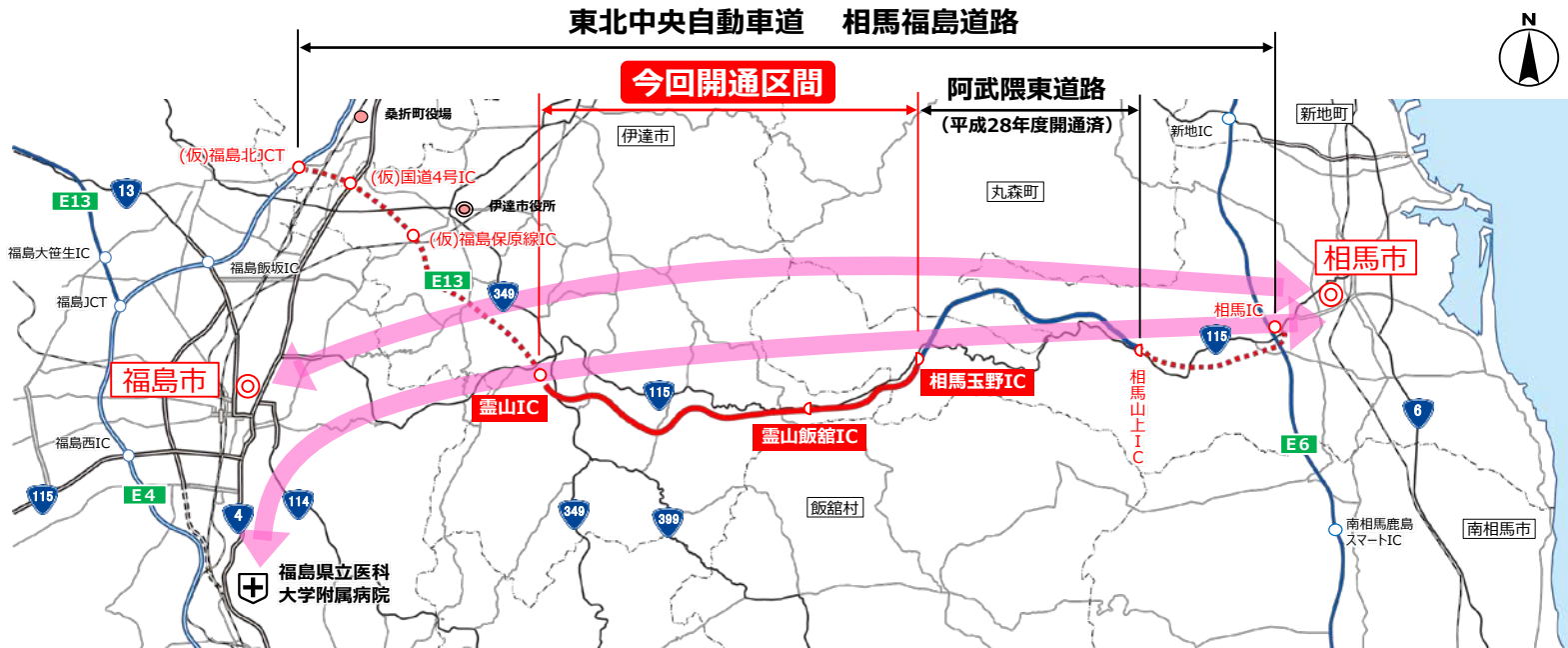
落石崩壊
(延長1.5km)

相馬福島道路

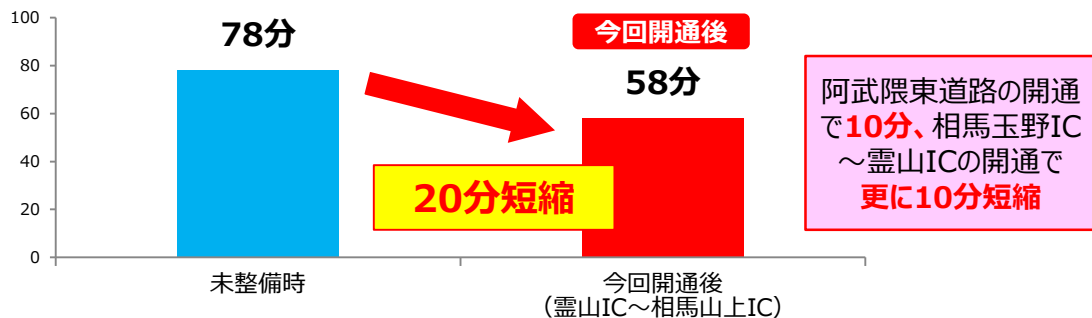


－相馬～福島間の所要時間が短縮－

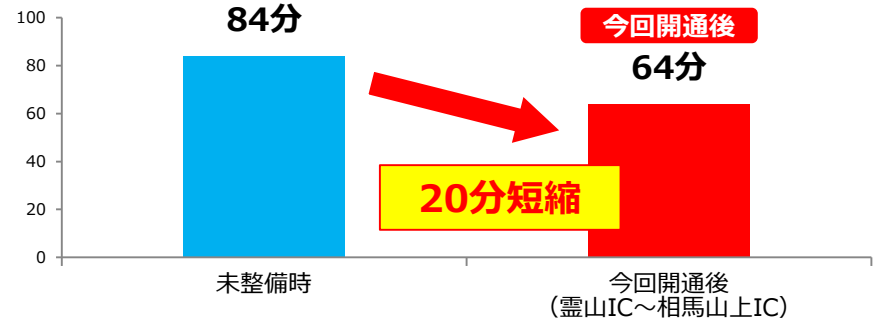
- ◆相馬福島道路（相馬玉野IC～霊山IC）の開通により、相馬市～福島市間の所要時間は未整備時より20分短縮
- ◆救急搬送の速達性確保のほか、観光交流・企業活動の活性化を支援



▼相馬市役所⇄福島市役所の所要時間の変化



▼相馬市役所⇄福島県立医大病院の所要時間の変化



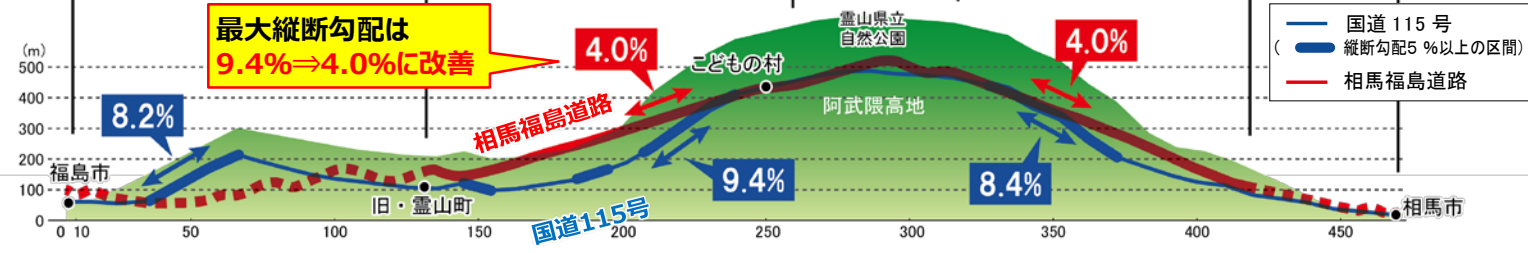
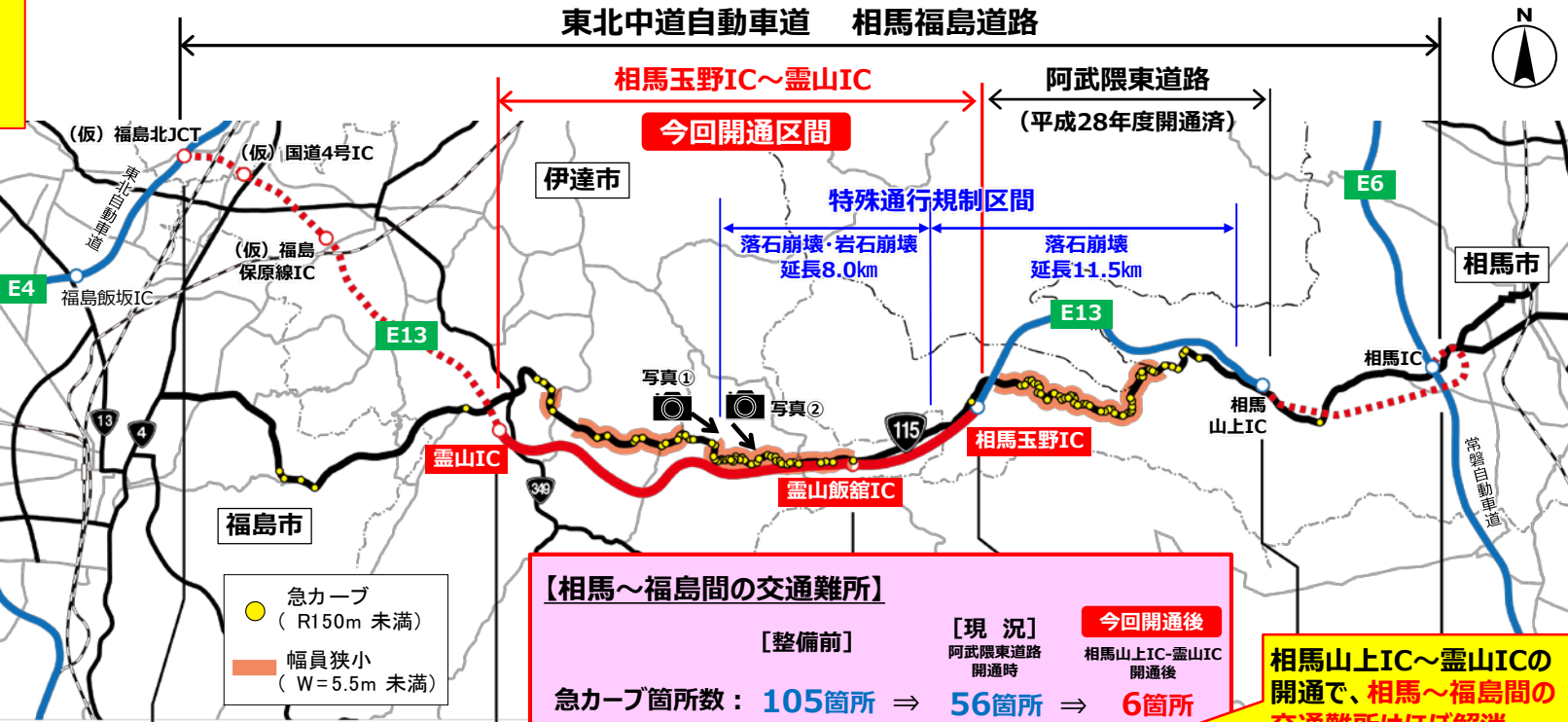
※国道115号・相馬福島道路経由 ※相馬福島道路の区間は70km/hで算出

出典：H27年全国道路・街路交通情勢調査

効果1：相馬～福島間の安全、安心な通行を確保

- ◆相馬～福島間を結ぶ国道115号は、急カーブや急勾配区間が連続し、災害等で通行止めが頻発
- ◆相馬玉野IC～霊山ICの開通により、急カーブや急勾配、事前通行規制区間等の交通難所はほぼ回避できるようになり、相馬～福島間の安全、安心な通行を確保

国道115号では災害による通行止めが頻発
(過去10年で14回の全面通行止めが発生)

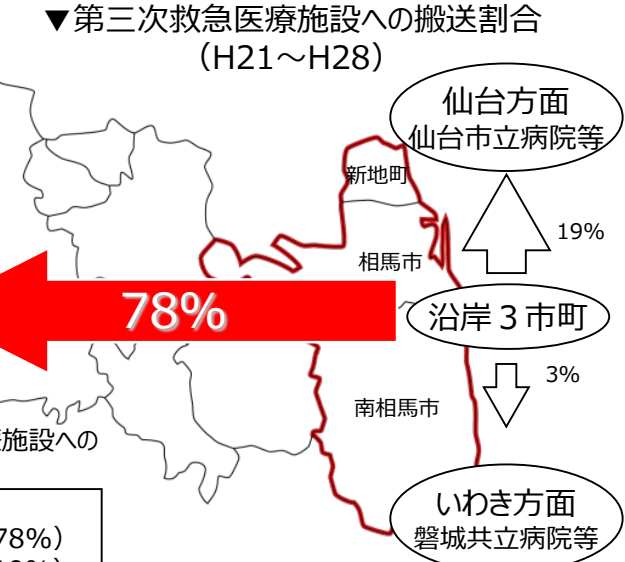


効果2：救急搬送の速達性・安定性を確保

- ◆相馬市等の沿岸部は、第三次救急医療施設がないため、福島市にある福島県立医大病院へ約8割が搬送
- ◆国道115号は線形不良箇所が多く、消防署からは搬送時の患者への負担が大きい等の課題を指摘
- ◆相馬玉野IC～霊山ICの開通により、相馬市役所～福島県立医大病院間の所要時間は未整備時より20分短縮されるとともに、安定走行が可能となり、搬送時の患者への負担が軽減



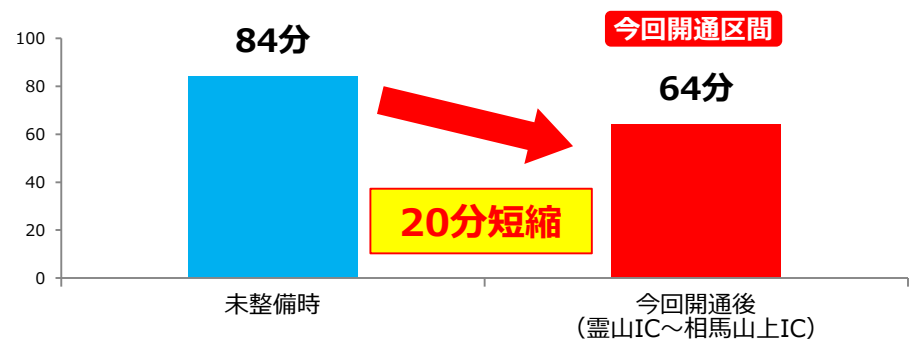
【相馬消防署の声】
 国道115号は急カーブや急勾配等の区間が多くあり、緊急車両も安定した走行が出来ず患者に負担を掛けている。



沿岸3市町から第三次救急医療施設への搬送件数 (H21～H28)

全搬送件数	920件/8年
うち、福島方面	713件 (78%)
うち、仙台方面	171件 (19%)
うち、いわき方面	30件 (3%)

▼相馬市⇄福島県立医大病院間 (国道115号・相馬福島道路経由) の所要時間



※所要時間は相馬市役所～福島県立医大病院間で算出
 相馬福島道路の区間は70km/hで算出

出典：H27年全国道路・街路交通情勢調査



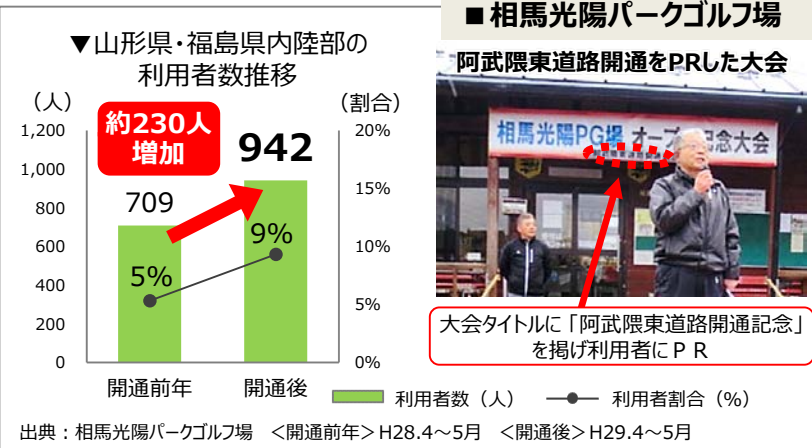
【霊山IC～霊山飯館IC並行区間】

【相馬玉野IC～相馬山上IC間】

効果3：広域的な観光周遊を支援

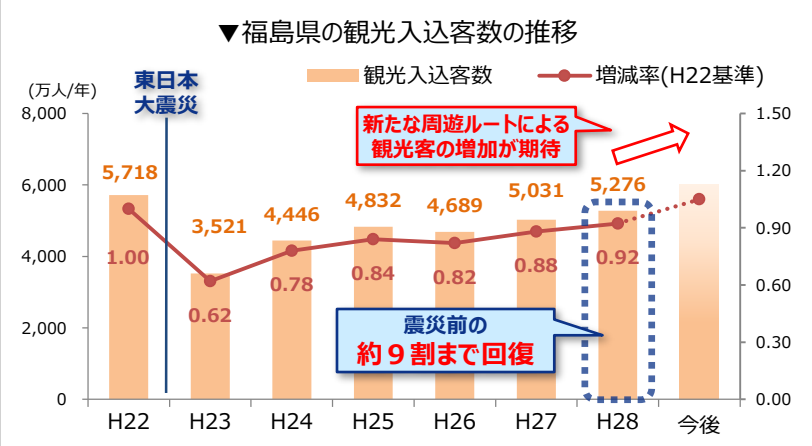
- ◆阿武隈東道路開通後、相馬市内の観光施設では山形県・福島県内陸部からの来訪者が増加
- ◆相馬福島道路が全線開通すれば、相馬～福島間の所要時間は約40分短縮されるとともに、相馬市を經由する広域的な観光周遊が可能となり、震災で落ち込んだ福島県の観光入込客の回復に期待

▼相馬福島道路開通に伴う広域的な観光周遊ルートの形成イメージ



【相馬光陽パークゴルフ場管理・運営者の声】

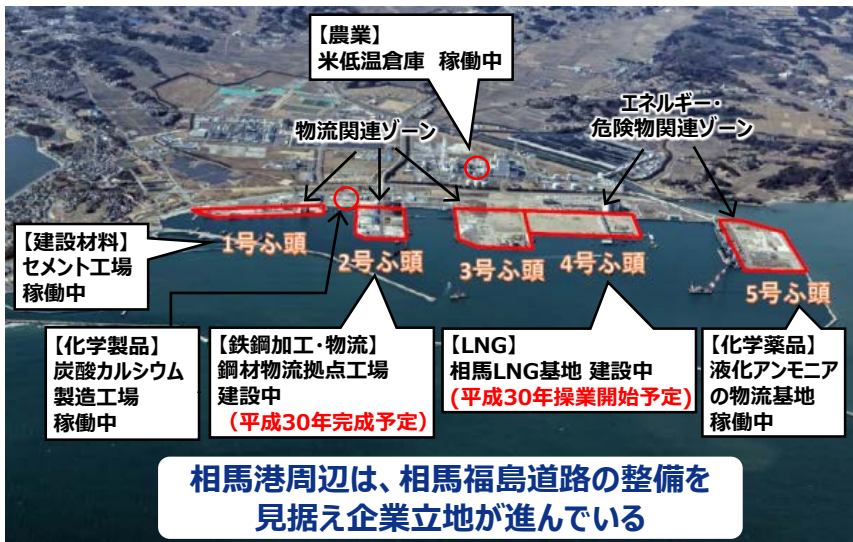
- 山形県や中通り・会津方面の参加者から「到着時間が早まった」「走行性が良くなった」との声があがっています。
- 相馬福島道路の更なる延伸により、内陸方面からのお客様が施設を利用しやすくなることを期待しています。



出典 (観光入込客数) 福島県観光客入込状況調査(H28)、宮城県観光統計概要(H28)
 (所要時間) H27年全国道路・街路交通情勢調査、相馬福島道路の区間は80km/hで算出

効果4：物流効率化で企業活動を支援

- ◆相馬港周辺は、相馬福島道路の整備を見据え企業立地が促進
- ◆国道115号の連続した線形不良区間を走行する際は、常に荷崩れや横転等の危険性が高く、ドライバーの精神的な負担が増大
- ◆相馬福島道路は、中通り地方と浜通り地方との物流を支える大動脈として機能し、走行性の向上や時間短縮による物流効率化により企業活動を支援



相馬港周辺は、相馬福島道路の整備を見据え企業立地が進んでいる

出典：福島県相馬港湾建設事務所



出典：加速度調査結果（H28.9.22）より

※単位(G)とは、加速度の単位で、重力加速度を1.0Gと表した単位である。すなわち、1.0G=9.80665m/s²である。
※0.2G以上の揺れ：体が横滑りする感覚を受け、長く続くと不快感を受ける加速度

【化学薬品製造会社の声】



- 炭酸カルシウムは急カーブ・急勾配が続くと重さが偏り横転する危険性があります。
- 現在、輸送ルートは主に国道115号を利用しており、急カーブ箇所も多いため常に細心の注意を払って輸送しております。
- 相馬福島道路が開通すれば、輸送時に横転する危険がなくなる他、輸送頻度・出荷量の増加に繋がることも期待できます。

【農産物取扱流通会社の声】



- 沖縄県への米の出荷量は、年間約4,000tあり、沖縄県向けの米の約8割は会津・中通り地方から国道115号や相馬福島道路を通過して、相馬港まで輸送されます。
- 相馬福島道路が全線開通すると、会津地方、中通り地方から相馬港への輸送負担が軽減されます。
- 道路整備による時間短縮、走行経費削減にも大いに期待しています。

【相馬港進出の鋼材販売会社の声】



- 山形や秋田の日本海側への需要拡大が見込まれ、東北各地へ高速道路を利用したアクセスが優れることから相馬港に進出しました。
- 相馬福島道路が全線開通すれば、物流面での効率化が格段に向上します。

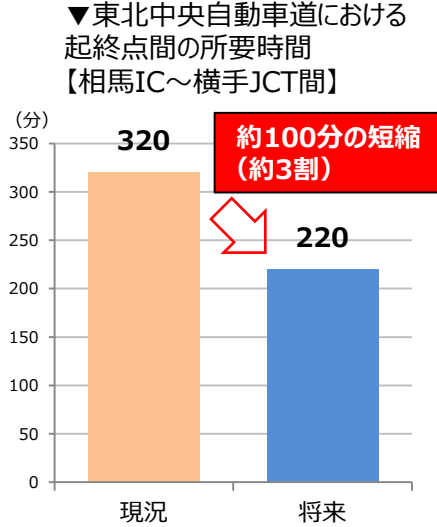
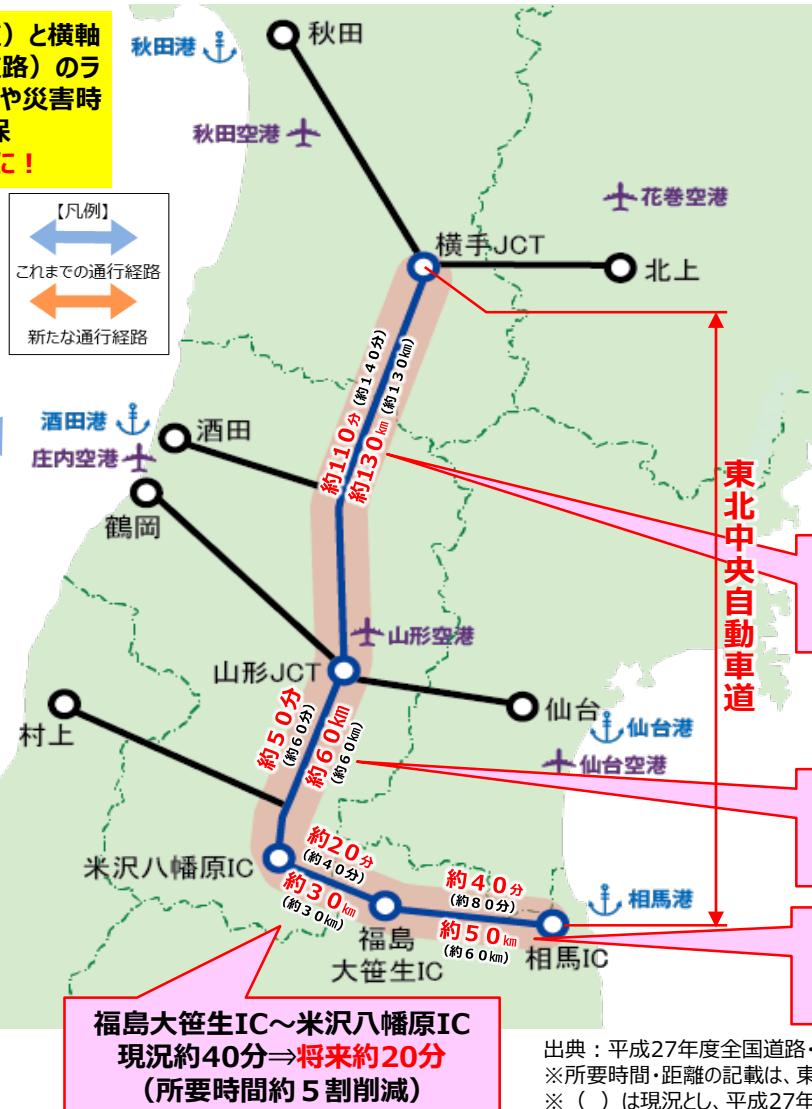
－東北地方の広域的な道路ネットワークが形成－

- 東北中央道の開通により、**広域的な通行経路の選択が可能**となり、悪天候や災害時においても**寸断されない信頼性を確保**
- 相馬IC～横手JCT間における**所要時間は約100分（約3割）短縮**

▼高規格ネットワーク図



▼東北中央道（相馬IC～横手JCT間）の所要時間変化（将来）



- 山形JCT～横手JCT
現況約140分⇒将来約110分
(所要時間約2割削減)
- 米沢八幡原IC～山形JCT
現況約60分⇒将来約50分
(所要時間約2割削減)
- 相馬IC～福島大笹生IC
現況約80分⇒将来約40分
(所要時間約5割削減)

出典：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査 昼間非混雑時旅行速度
 ※所要時間・距離の記載は、東北中央自動車道開通後の所要時間にて算出
 ※（ ）は現況とし、平成27年度時点の並行路線等の所要時間・距離を記載